

第13号

1997年7月

社會經濟史學會中國四國部會

會報

(発行)

会報編集委員会

岡山大学経済学部内
岡山市津島中3-1

97年度大会案内

本年度の大会を下記の要領で開催します。皆さま方の多数のご参加をお願いいたします。

日時 : 11月1日(土)、2日(日)
場所 : 広島大学経済学部

研究報告テーマの申込切: 8月31日
(同封の振替用紙または葉書で申し込んで下さい。)

理事会開催日: 9月7日(土)に岡山大学経済学部にて開催予定。報告者・報告テーマ・司会者の決定などを行います。

報告要旨の送付期日は9月末日となります。



事務局では、この会報に掲載する会員の皆さまの研究動向その他の情報をお待ちしています。どしどしお寄せ下さい。

今回は、今年4月に出版された呉市史編集委員の千田武志氏の『英連邦軍の日本進駐と展開』の内容紹介、および、この研究に関する千田氏自身の随想を紹介いたします。また、本学会事務局員の在間宣久氏から、「岡山近代史研究会」の活動について報告をいただきました。あわせて、ご参照下さい。



1. 千田武志著『英連邦軍の日本進駐と展開』……内容紹介

本書は『呉市史』第八巻第二編「連合軍の進駐と呉市」として著述され、この度『英連邦軍の日本進駐と展開』として再版されたものである。その主要な論点については、「英連邦占領軍の日本進駐について—反宥和政策の推移を中心として—」(1990年度大会)、「英連邦軍占領軍の形成過程」(1992年度)、「英連邦占領軍の上陸と展開」(1993年度)と3度にわたって本学会で報告されていますのでご承知のことと思いますが、連合国軍による日本占領が、事実上アメリカ軍による単独占領であったとする認識に対して、アメリカ軍とともに連合国軍を構成し、中国・四国地方に進駐した英連邦軍の存在を無視しては、占領史の全体像を明らかにしえないばかりでなく、たとえば朝鮮戦争における連合国軍の形成に関しても、その実態や政策解明が不可能になることを、豊富な現地資料によって明らかにされています。

本書執筆の経由に関しては、氏自身による随想「英連邦軍と中国・四国地方」を掲載していますので、それをお読みいただくとして以下、目次を掲載し内容紹介にかえます。

(事務局: 森元辰昭)

『英連邦軍の日本進駐と展開』目次(抄録)
はじめに

第1章 連合軍の進駐と日本側の対応

第1節 アメリカ占領軍の進駐

第2節 地方軍政機構の推移

- 第3節 連合軍受入機関の整備
- 第2章 英連邦占領軍の形成と任務
 - 第1節 外交交渉の推移
 - 第2節 指揮と管理をめぐる諸問題
 - 第3節 任務と目的
- 第3章 英連邦軍の進駐と再編成
 - 第1節 占領地区の決定と拡大
 - 第2節 英連邦占領軍の進駐と展開
 - 第3節 英連邦占領軍の再編成
- 第4章 英連邦占領軍の組織と活動
 - 第1節 指令と作戦
 - 第2節 人事部門等の活動
 - 第3節 兵站部門の活動
- 第5章 朝鮮戦争勃発後の英連邦軍
 - 第1節 朝鮮戦争の勃発と英連邦占領軍の活動
 - 第2節 国連軍協定をめぐる諸問題
 - 第3節 英連邦朝鮮派遣軍の引揚げと施設の返還
- 第6章 連合軍と呉市民
 - 第1節 連合軍の受入れと市民感情
 - 第2節 フラタニゼーション・ポリシーの実態

写真一覧

おわりに

(御茶の水書房、1997年4月刊、A5版
Xii+453ページ、5500円+税)

以下の随想は、著者の千田武志氏が『大蔵ちゆうごく』（大蔵省中国財務局広報、No. 731997.5）に掲載されたものを転載したものである。

英連邦軍と中国・四国地方

千田武志

春のおとずれとともに周囲の山々は緑につつまれ、その姿をきそうかのように花が彩りをそえています。人間をよくめて、この世に生をうけた生物はみな自分に通じた花を咲か

せたいと願っているかのようなのです。

この四月、私は『英連邦軍の日本進駐と展開』という本を発刊しました。社会的にどのような評価をうけるかはわかりませんが、私にとってこの本は、多年にわたる構想を実現した花なのです。

私が英連邦占領軍のことを知ったのは、昭和五十三（一九七八）年十一月に防衛庁戦史部の図書館を訪れて「兵進駐関係綴」などの資料を収集したさいのことです。この資料によって、中国、四国地方はアメリカ占領軍について二十一年二月から英連邦占領軍によって占領されたことを知ったのでした。日本占領の特色は、連合軍といいながら事実上アメリカ一国によって単独占領され、間接統治方式が採用された点にあると重いこんでいた私は、英連邦占領軍の存在におどろき、そして興味をもちました。

昭和五十八年四月、かつての軍港として知られ、英連邦占領軍司令部のおかれた呉市の市史編纂室に勤務することになった私は、ライフワークとして呉海軍工廠と英連邦占領軍について研究をすることにし、当面の目標として後者に焦点をあて、近い将来、海外資料の収集にでかけることを決心しました。それから五年後、『呉市史』第五巻（昭和前期の呉市政）、第六巻（昭和期の呉海軍と合併町村）を発刊した私は、いよいよ呉市史の戦後編のための海外資料調査にでかけることにしました。

昭和六十三年十月、事前調査もそこそこに、大学生の姪と一緒に、英連邦占領軍の資料の調査と収集のために、同軍の中心となったオーストラリアとニュージーランドを訪問。そこで予想をはるかにうまわる資料が存在することを確認した私は、翌平成元年十月に再度両国をたずね、オーストラリア戦争記念館、国立公文書館、国立図書館、ニュージーランドの国立図書館、国立公文書館、国防省図書館や退役軍人などから多くの文書、写真、映像

フィルム、著書、論文を収集することができたのでした。

これらの資料を利用して一連の論文を書くなかで、占領史の研究にとって、多い時には三万七千名を数えた英連邦占領軍の存在は無視ないし軽視することは、政策面と実態面の両面において、戦後史研究の欠点となるだろうという確信をもつようになりました。より身近な例として、英連邦占領軍が、同軍の軍人と日本人、とくに日本人女性との交際を禁止する規制を制定したという事実を知らなくては、両者の結婚になぜ多くの困難がともなったかという点を説明することはできないという点をあげることができます。

『呉市史』第八巻第二編とこれをもとに発行した『英連邦軍の日本進駐と展開』においては、これまで英連邦占領軍の説明がほとんどなされていないという認識にたつて、その形成、進駐、組織と活動、朝鮮戦争との関係、日本人との交友、撤退など、総合的に説明することにつとめました。これによって、かつての私のように、事実上、日本はアメリカ一國によって単独占領されたと考える人がいくらかでも少なくなることを願ってやめません。とくに、実際に進駐していた中国・四国地方の人にとって、英連邦占領軍は、けっして忘れられた軍隊であってはならないでしょう。

(写真は省略しました一事務局)

2. 岡山近代史研究会の活動状況 在 間 宣 久

(1) 研究会の発足

「岡山近代史研究会」は、1990年9月にその前身である「岡山大学日本経済史研究会」(1976年12月発会)の研究例会が100回を迎えたのを機に、研究範囲、分野をより広げて行くため、名称も変えて新たな体制で活動を続けていくこととして再発足したものである。

10名余が集まって行われた創立総会で、代

表者は、神立春樹岡山大学教授から森元辰昭氏(現会長)へと引き継がれ、事務局の体制も整えられた。それまで個々人では進められてはいたものの、やや停滞気味であった岡山県地域の近現代史研究の中心的組織として、積極的活動を行おうとの意志決定がなされた。本会の発足に当たっては、地元紙の「山陽新聞」紙上(9.19)に、「他分野の人交え研究広がる」と取り上げられ、広い範囲への呼びかけも行われた。その後8年目を迎える今日では、約30余名の会員が、毎月第3金曜夜に岡山大学で開かれる研究例会を中心に、活動を続けている。

(2) 活動の現状

約30余名の会員は、大学教員、公・私立学校教員、大学院生、学部学生、社会人等々となっている。発足以来8年目を迎えることは先述したが、特筆すべきことは、その間毎月の研究例会が欠けることなく続いていることである。当初は参加者もさほど多くなかったが、最近の例会には20数名が参加され、会場も広い部屋に移さねばならないほどの盛会となっている。うれしい限りである。それには、「山陽新聞」の「情報ひろば」の紙面に例会開催の概要を掲載していることが大きく寄与している。会員でなくても自由に参加できるので、テーマによっては新たな参加者もみられ、それを機に入会される場合もある。

第168回の鞠玉華氏の新聞掲載記事は、次のようになっていた。(1996年4月19日)

催 し

◆岡山近代史研究会第168回研究例会

19日午後7時、岡山市津島中、岡山大学経済学部神立春樹研究室。岡山大大学院文化科学研究科の鞠玉華さんが「戦後日本職業教育の歩み—高等学校の職業教育を中心として—」と題して報告。無料。清心女子校の森元辰昭同研究会長(086-462-1661)

参加者が広範囲であることで研究内容の範囲も広くなり、研究報告も多岐にわたるようになった。一例として1996年度の例会報告をあげると、以下のようである。

- ・第186回 4.19 戦後日本職業教育の歩み (鞠玉華)
- ・第187回 5.17 農商務統計における「水産統計」の変遷 (熊谷正文)
- ・第170回 6.21 近世中期「浮遊層」の存在と産業・運輸との関連性 (藤井宏昌)
- ・第171回 7.19 戦後農地の減少問題 (李煥)
- ・第172回 8.24 東備における階級と階層 (仙田実)
- ・第173回 9.20 中国産業遺産研究会に参加して (吉崎一弘)
- ・第174回 10.18 アメリカ公共図書館の印象 (神立春樹)
- ・第175回 11.15 庶民金融と神根村の公益質屋 (吉崎一弘)
- ・第176回 12.20 森林の水資源機能に関する論争をめぐって (吉沢利忠)
- ・第177回 1.24 小作算用帳の分析 (森元辰昭)
- ・第178回 2.21 物流からみた明治の玉島湊 (上田賢一)
- ・第179回 3.22 倉敷義倉と民衆 (内池英樹)

このように報告内容が、教育・産業経済・統計・環境問題等と、極めて多岐にわたっており、時期も近代現代に限らず近世にまでおよんでいる。さらに、すでにお気付きの通り、これらの内の鞠・李・仙田の諸氏は、社会経済史学会中国四国支部の大会でも報告している。本研究会で報告、討論を経た後、報告論旨を再度練り直し、大会に備えているのである。これは報告者にとって大いに役立つもの

となっており、こうした各学会報告へ向けた取り組みは、本研究会の特徴ともなっている。

(3) 研究会の課題

岡山近代史研究会会則では、「研究例会のほか、会誌・会報の発行その他の活動を行う」としている。研究例会は前述した通りであるが、会員自らの手作りによる会誌・会報の発行については、残念ながらきちんできていないのが現状である。過去、岡山大学日本経済史研究会の時代には、通算14号の会誌を発行しているが、本研究会となってからは、前号に続いての第15号が発行されているに過ぎない。これはひとえに事務局の怠慢というほかはないが、会報には、例会報告の周知、会誌は論文・研究ノート、メモ、研究動向の集録などを中心に、両誌の発行を軌道に乗せたいと考えている。

また、本研究会では「岡山近代史研究叢書第1輯」として、神立春樹著『近代岡山県地域の都市と農村』（御茶の水書房、1993.10）を発刊している。その第2輯として『ある山村の近代史』（仮称）を刊行の予定である。会誌・会報とともに、この叢書の刊行も続けて行きたいと思っている。

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝
編 集 後 記
＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝
今年は空梅雨かと思っていましたら、ここに来て集中豪雨にみまわれ、各地に被害が出ている模様です。

中学校社会科教科書をめぐる動向が気がかりです。「あった」ことを認めることが、「なかったこと」を証明するのと同じくらい困難なことであることを、改めて考えさせられます。

6月末刊行が7月になってしまいました。おわびするとともに、原稿をお寄せ下さいました千田・在間両氏に感謝します。

(森元記)